



知夫小中学校
 Tel 08514-8-2015
 Fax " 8-2312
 〒684-0100
 知夫村 1053-1
 [HP] <https://www.chibumura.ed.jp/>

『提案発表』◆知夫未来子ども議会◆



二月五日、村の役場議場において、「令和元年度知夫未来子ども議会」が開催されました。村行政に対し、中学部二年生が、より良い知夫村になるためにはどうあるべきか、を真剣に考え、村長や各課長相手に提案発表を行いました。二年生は、四月から総合的な学習の時間を使って、準備を重ねてきました。大人でも解決が難しい、村の課題に対し、行政や村民へのアンケート、実際に地域に足をのぼしての聞き取り調査などを通して、各々の提案を作り上げていきました。生徒は正解の見えない学習の中で、何度も壁にぶつかることがありましたが、指導教員とともに考え、力を付けていきました。この学習を通して生徒自身が考えたことや付けた力が、これからの学校生活でどのような形で活かされていくのか楽しみます。

開催に当たってお世話になった関係各所の方々、学習に際して親切に関わってくださった地域の方々、本当にありがとうございました。

〔中学部二年担任〕

【学校教育目標】

未来を切り拓く
 心豊かでたくましい
 知夫の子どもを
 育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

中学部二年 女子

私は、子ども議会は、少し悔いが残る結果になってしまったけど、それまでにやってきたことは自分のためになったし、成長することができたと思います。提案ができるまでに、情報を得るための大人への聞き取り調査、保育所に通っている子どもの保護者さんへのアンケートにご協力いただくなど、たくさんの方の力を借りました。中間発表の提案では、「もうこのイベントはある」と言われ、他の提案を考えようと思ったこともありましたが、役場の方々にさらにいるいる聞いて、提案を前進させることができました。大人の方と話していく中で、今までずっと苦手だと思っていた話す力をつけることができました。

子ども議会を通して、今までできていなかったことができるようになったり、自分で責任を持ち、一つのことをやり遂げることができるようになりました。初めてのたくさんの方の経験ができて良かったです。今回身につけることができた力を、これからにつなげていきたいです。

・・・地域の方からの感想より・・・

○小さい頃から知夫で育った子ども達だけでなく、島留学生も知夫の良さを知り、これからの知夫のことを一生懸命考えてくれていることを嬉しく思いました。大人では思いつかないような子どもの純粋な要望を、役場の方々も真剣に考えてくださっていることがわかりました。一つでも多く実現し、子ども達の願う知夫村になっていけばいいなと思います。

○昨年に比べて提案者が増え、多彩なアイデアがあり、大変楽しく聞きました。表面的な提案でなく、きちんとデータを裏付けにしている点も見事だと思いました。

『中学部体験入学』

二月四日、小学部六年生を対象とした中学部体験入学を行いました。六年生三名は、学校生活についての説明をしっかりと聞き、国語の体験授業に楽しく参加していました。一人一人の元気な姿には、入学にあたっての不安は見られませんでした。これは、日頃から中学生との交流が多いという小中一貫校の良さでもあります。一人一人が今の自分を振り返り、立派な中学生になるための目標や心構えを新たにしていきたいと思います。

〔中学部教頭〕



『小学部一日入学』

この冬最大の寒波が過ぎ去った二月十九日。ポカポカと日差しにも恵まれた中、郡保育園年長組の六名を迎えての一日入学が行われました。

この一日入学は、来年新しく加わる一年生に楽しく学校で過ごしてもらおうための行事ですが、一番大事なのは、四月から新一年生と毎日一緒に過ごす現一年生の心構えを育んでいくことです。国語の学習を生かしたお部屋さんごっこ準備や進行、プログラム作りなど、たった二人の一年生でやるべきことは山ほどありました。でも、困った時には二年生がアドバイスをしてくれたり、サポートをしてくれたりするのが複式学級のいいところです。二人の一年生と一人の二年生で「年長さんに笑顔になってもらうために」を合言葉に準備を進めてきました。

そして迎えた当日。迎えた在校生も迎えられた年長さんも楽しいひとときを過ごし、みんなで笑顔になれた一日となりました。「ああ、おもしろかった」「またね」と手を振って帰る年長さんの後ろ姿を見送りながら、春の訪れが益々楽しみにになりました。

〔小学部一・二年担任〕

児童生徒会イベント

『チブリンピック』

生徒会本部が初めて全校を動かす、生徒会イベント。今年は「全校みんなが笑顔になるように」を目標に、チブリンピック(ミニ運動会)が開催されました。本部役員の生徒が様々な時間を使って準備を重ね、本番も自分たちで進めていきました。全校児童生徒が笑顔で楽しんだ一時間。時間も押すことなく、しっかりと運営をしてくれた本部役員の姿に、これから学校を担っていく責任と自覚を感じることができました。

〔児童生徒会担当〕

生徒会長 中学部二年 男子

後期児童生徒会が始まって、初めて自分たちが運営するイベントだったのでとても緊張していました。企画書を作ったり、先生に見てもらって何度も意見をもらったり、全部が初めてでやり方などが分からず、不安でした。リハーサルするときも不安で胸がいっぱいでした。

しかし本番では、全校が楽しんで盛り上がるイベントにすることができました。時間もピタリで、ちゃんと成功して良かったです。一生懸命準備をして、成功したことで少し自信ができました。これからはこの経験を活かして全校がさらに笑顔で溢れるようにしていきたいです。



給食ついて考える 『学校給食週間』

毎年一月二十四日～三十日は、『学校給食週間』です。そこで、今年度もこの期間を通して、給食について知ったり考えたりしました。

野菜生産者さんにお越しいただいた全校集会では、野菜生産者さんの仕事について学びました。実際の野菜作りの写真を見せていただきながら、給食で使う野菜作りへの思いを知ることができました。また、野菜生産者グループの大きな課題も知ることができ、野菜生産者さんの仕事の大変さと共に、これからの給食用野菜についても考えさせられました。

また、毎日の給食時間には、身近にいる給食関係者さんやその人たちの仕事について、給食の放送や掲示物を通して知ることができました。自分たちが食べている給食は、多くの人たちの力でできていることをあらためて確認しました。

こうした活動の後には、児童生徒一人一人が給食関係者さんたちにメッセージを書き、委員会活動で給食関係者さんに渡すメッセージカード作りを行いました。子どもたちの工夫や気持ちの詰まったメッセージカードに仕上げ、給食関係者さんとの「ふれあい給食（二月十四日）」時に、感謝の言葉とともに渡しました。こうした活動を通して、給食はいろいろな方々の力や思いが詰まっていて自分たちのためにあることや、給食のありがたさをあらためて感じることができました。

また、学校給食週間中には、給食メニューに取り入れられた県内の他地域や他県の料理を味わいました。栄養教諭からの料理説明や実際に食することを通して、その地方の食材や独特な料理法について学んだり、味や食感などを体験したりしました。

〔給食担当〕



小中一貫校の強みをいかして

2月6日、本校で「島根県複式教育推進指定校事業」の研究発表大会が開催されました。研究概要説明や公開授業、授業研究等の様子についてお知らせします。

立春を過ぎ、春の訪れを感じ始める頃となった2月6日。小学部において「島根県複式教育推進指定校事業」の研究発表大会が開催されました。『対話的で深い学び合いの実現に向け、表現する力を高め合う知夫の子ども育成』～ダイヤモンド型を軸としたガイド学習の実践～を研究主題に据え、完全複式校（小学部の全学級が複式学級）であることや小中一貫校であることのよさを生かした日常の積み重ねを重視して、校内研究に取り組んでいます。その一端を参会されたみなさんにも実感していただける有意義な一日となりました。

<午前部：研究概要説明・公開授業>

ダイヤモンド型の学習（校報12月号参照）を組む時のポイントとして、学習者（子ども）は、話すルール・聴くルールを意識して自分達の声を繋いで授業を進めること、授業者（教師）は、2学年分の教材をしっかりと分析・解釈して、子ども達が自分達の力で授業を進められるように待てる準備を整えること等について説明しました。そして、その取り組みの成果の一端を5・6年生の国語の「書くこと」を中心とした授業公開を通して見ていただきました。

<午後 授業研究・指導助言>

5・6年生の国語の授業研究を通して、「ダイヤモンド型の学習のもつ2学年が一体となって学習を進める意義」、「2学年の学習の類似点と相違点を照らし合わせて単元を構成するよさ」などについての意見交換が成されました。

また、島根県教育委員会・隠岐教育事務所・知夫村教育委員会から参会して下さった3名の指導主事からは、ダイヤモンド型の学習から伺える対話的な授業への期待感や複式教育だけでなく、単式学級や中学部の授業の中でも生かされる可能性についての助言をいただきました。

参会して下さった方々が帰られる前に“ダイヤモンド型いいですね”“ダイヤモンド型は難しいと思っていたけど、簡単なことから真似してみようと思いました”という嬉しい感想を頂いたりしましたが、まだまだ積み重ねの途中です。今後も引き続きダイヤモンド型の学習を軸にした取り組みを進めていこうと気持ちを奮い立たせる機会ともなった研究発表大会でした。
〔研究主任〕



『第三回校内マラソン大会』

二月十二日に今年度三回目の校内マラソン大会が行われました。子どもたちは記録更新を目指しひたむきに走りましたが、冬季のマラソン大会ということもあり、運動量の少なさからなのか、記録アップ者が前回大会までと比べて少なかったです。この結果をふまえ、運動の基本として走ることを見つめ直し、体力・精神力の向上につながるよう、走ることを中心とした体力作りに力をいれていきたいと思えます。

保護者、地域の皆様には今大会でもたくさんさんの温かいご声援をいただきました。ありがとうございました。
〔体育主任〕

小学部三年 女子

マラソン大会では、自分の最高記録を出せてよかったです。走る前はいいタイムが出せるかなと思っていました。それは、朝マラソンもランタイムもよいスピードで走ることができなかったからです。でも、走ってみると、前回よりもお君との差がちがっていていると思いました。これからはランタイムや朝マラソンのときには、前よりも速く走ることができるように、できるだけ毎日外に出て走りたいです。

中学部二年 女子

私は第三回校内マラソン大会を走って、女子初の七分台で走ることができました。走ってみて、結構しんどかったけど、もっと上を目指したいので、もっと練習して楽に走れるようになりたいです。中学三年生の残り二回で、古谷有己くんの七分三十二秒の男子の大会記録よりも速く走って、七分十秒代を目指したいです。そして今後、男子も女子も抜けない大会記録を出して、自分の出した記録がずっと残っているようにしたいです。そのために、これからも毎日コツコツと一生懸命練習をしていき、この目標を叶えることができるように頑張ります。